



旭山動物園内 動物資料展示館へ！
北海道の外来生物の現状展（～10/21）開催中！

ASAHIYAMA Zoo

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

北海道の外来生物の現状展 動物資料展示館にて開催中！

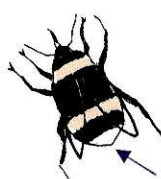
園内でも
外来生物が
みられます

●小獣舎では
アライグマとタヌキの比較展示
運動能力の大きなちがいが見られます

●は虫類舎では
「カエルツボカビ症の脅威」
について、さらにくわしく！

●外来植物探索ウォーク
園内12カ所に外来植物の解説看板があります。
看板を見つけて、外来植物を観察しよう！

おしりが白いのが特徴です



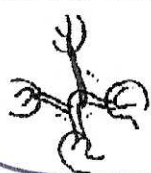
セイヨウオオマルハナバチ

チは、15年前に輸入されました。それまで、トマトのハウス栽培をしている農家の人は、手作業でトマトの授粉していました。農家の人たちの重労働から救うかのように現れた天使が「セイヨウオオマルハナバチ」でした。

しかし、それが外に逃げだしてしまうと…もともと北海道にすんでいたマルハナバチのエサを奪ったり、巣をのっとったりしています。セイヨウオオマルハナバチは天使から一転、悪魔のような存在になってしまいました。

けれど彼らの身になって考えたら、突然、知らない土地に連れてこられ、生き延びるために必死なのです。とはいえ、何の罪もない北海道のマルハナバチがおいやられていっているのを見過ごすわけにはいきません…

実は私たちの身の周りの植物にも帰化（外来）植物がたくさん。



ハコベラや、シロツメクサでかんむりをつくって、外来植物であそぼう！！



混乱してしまった北海道の生態系を、もとに近づけることができるのは、どうしたらいいのでしょうか？～地球の健康を守る玄関口～の動物園が「もっと伝えたい」ことについて知ってもらえたのなら、とてもうれしいことです。

北海道の外来生物の現状展 はじまり、はじまり

アズマヒキガエル・ツチガエル・ウシガエル 展示中

「カエルツボカビ症」について、は虫舎で解説しています



他の地域から人によって連れてこられた生き物（外来生物）が私たちの身近な自然におよぼす影響について、図や写真を使って解説し、北海道の現状についてお伝えします。動物園職員の手作り＆手書きのパネル展です。

北海道には、もともとすんでいたカエルは、エゾアカガエルとニホンアマガエルの2種だけでした。でも今は7種ものカエルがすんでいます。これは、うれしいことのようにも聞こえるかもしれませんが、そうではありません。北海道の各地では、本州から持ち込まれたカエルたちや、海外原産のカエルが生息しています。他の地域からカエルをもちこまれると、その地域にすんでいるカエルやその地域の生き物に大きな影響を及ぼします。特に、輸入された海外原産のカエルからは、日本にはない病気がもちこまれる危険性があります。最近では、在来の動物たちにその病気が広まってしまふことが心配されています。人間の安易な気持ちで生物を持ち込んだり、すててしまうことは、野生の動物たちを絶滅に追いやるほど大変なことなのです。

北アメリカ原産のアライグマは、とっても手先が器用です。木登りが得意で、抜群の運動能力をそなえています。だから、北海道でエサは取り放題といってもいいくらい。長い時間をかけて作られたその土地の「食う-食われる」のバランスはアライグマの登場で一瞬にして崩れてしまうのです。

北海道の自然に脅威ともいえるアライグマが、去年、旭川市内で初めて捕獲されました。以来、旭川市では動物園も協力して、捕獲をすすめ、設置した箱ワナには次々とアライグマの姿が…

外来生物とは、人為的に持ち込まれ、それが逃げだしたり、捨てられたりして野生化した生き物を言います。そのきっかけは産業であったり、ペットや狩猟を目的にした輸入だったりします。



ほしい、ほしい！！



どれをとっても人の欲望がからんでいるものばかり。もともとは人間が引き起こしてしまったものなのです。それらが今どんな状況になっているかというところ…

飼育展示係が行う、外来生物展ガイドツアーにお越し下さい！！

園内で外来の動物たちを観察し、体のつくりや運動能力の高さを知ることができます。資料展示館ではパネル展の解説や北海道の現状のお話をします。開催は不定期で、当日、園内放送でお知らせします。

外来生物観察会 9/29(土) 13:00～

塩田惇先生（旭川帰化植物研究会代表）や動物園職員と、アライグマやミンク、外来の植物などを園内で観察しながら散策します。事前にお申込のうえ、ご参加ください。

集合場所 動物資料展示館 前

外来生物展 特別企画

お問い合わせ：旭山動物園
0166-36-1104

三度のメシより アライグマ 10/6(土) 13:00～

研究者・行政・動物園職員のさまざまな視点からアライグマについてお話しするアライグマフォーラムを行います。アライグマが生態系におよぼす影響について考えてみましょう。事前にお申込のうえ、動物図書館へお越し下さい。